

多職種連携に向けて

続々・つなぐ手つながる手

⑥

伊南訪問看護ステーション・中村英治作業療法士

何らかの原因で病気になる、あるいはけがをされて、後遺症のある方がいらつしやいます。私たち作業療法士はそういう皆さんに、トイレや着替え、食事といった動作を評価し、趣味活動や仕事、生活歴とかを伺って、それを踏まえながら作業を用いてリハビリをしています。

リハビリというと、関節を動かしたり、筋力が弱くならないように筋トレをしたりするようなイメージがあると思いますが、在宅の場合、それもありますが、歩行だったり、トイレ動作だつ

たり、趣味活動だつたり、日常生活を送る上で必要な

「生きる喜び チーム力で支える」

機能回復のお手伝いをしていきます。自発的に活動し、地域に出て、地域の寄り合いの場に行かれるように促していくことも大切なことだと考えています。そのためは、家族や地域の皆さんに働きかけていくことも必要になります。

利用者の皆さんには達成感を感じてくださる方もいらつしやるし、目標が高か

つたり、今のままでいいという方がいらつしやたり、さまざまです。中には、「家族はリハビリを必要だと思ってるのに」、「必要ない」とかたくなにお断りになる方もいらつしやいます。そのままでは徐々に生活の質が低下してしまますので、そういう皆さんにどうやって必要性を伝えて

いますが、地域の健康教室には参加していただきたいと思ひます。今後は教室やサロンに参加されていない皆さんに、いかに宣伝していくかが大事だと思ひて、特に男性に向けて、どう呼び掛けていくかが課題です。

「生きる喜びをチーム力で支える」。これが、ステーションが掲げる使命です。一人の利用者さんにチームで関わり、みんなで考えていくんだという使命感で取り組んでいます。リハビリチームには理学療法士もいます。またステーションには看護師やケアマネジャーもいますので、視野が広がります。利用者さんにとつてもメリットがあると思ひます。私たちと共に利用者

いくかが難しいところです。駒ヶ根市では地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが動き出しています。伊南訪問看護ステーションからも2人のスタッフに参加して、介護予防をする上で高齢者に対して何ができるかを考え、メニューづくりを進めているところです。市内16地区でのそれぞれの取り組みになると思

皆さんも、ご家族もまたチームの一員です。「生きる喜び」とうたっています。が、喜びを感じていただくことで自発性も、意欲も上がっていくものです。利用者さんが自信をつけて、「もう来てくれなくても大丈夫だよ」と言っていただけのようにしたいものです。



伊南訪問看護ステーションのリハビリチーム